倫　　理

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

令和３年度（第１回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の倫理の問題作成の方針は以下のとおりである。

人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考えを働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

ここでは，本年度の問題について以下の視点から分析し，上記の方針に基づいたものとなっているかどうかについて評価したい。

⑴　問題作成方針を踏まえて，知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め，バランスのとれた出題となっているかどうか。

⑵　高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）の範囲内から出題されており，特定の分野・領域に極端に偏っていないかどうか。

⑶　出題される資料等が，特定の教科書に偏っていないかどうか。

⑷　高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，その場面設定が，教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されているかどうか。

⑸　試験問題の構成（設問数，配点，設問形式等）は適切であるかどうか。

⑹　文章表現・用語は適切であるかどうか。

⑺　問題の難易度は適正であるかどうか。

⑻　得点のちらばりは適正であるかどうか。

２　内　容・範　囲

第１問　「自然と人間」について（源流思想）

大学のオープンキャンパスでの模擬授業中の高校生の会話を通して，自然に照らして人間の在り方を考察してゆく場面設定である。レポートやメモ，発表の設定によって発展的課題を示し，様々な立場から考えさせる工夫がみられる。全体としては，バランスの取れた標準的な難易度の大問となっている。

問１　基本的な知識の理解で解答が可能な平易な設問である。

問２　森羅万象について，二元構成の比較を通して基本的な知識の理解を問う平易な設問。

問３　スチュワードシップの思想を活用することで，動植物との関係を多角的に考察させる良問である。しかし，スチュワードシップの思想は，教科書の頻出度が低く，やや難易度の高い設問となっている。新しい視点を生み出す工夫を生かすためにも，会話文に思想のヒントとなる内容を追記するなど，もう一工夫を期待したい。

問４　人間の在り方を水になぞらえた孔子，老子の思想についての理解を問う平易な設問。

問５　古代ギリシャの思想家の思想について，基本的な理解が出来ていれば解答できる平易な設問である。レポートで「自然と人間」の発展的な報告が示されているが，選択肢と内

容が連動しておらず，もう一工夫を期待したい。

問６　仏教の世界観について，宇宙の根本原理ブラフマンをどうとらえ理解しているかを考察させる，やや難易度が高い設問であるが，良問である。

問７　ムハンマドと共に，イスラーム教の生まれた背景，一神教，人格神の特色というイスラーム教の基本的理解があれば解答できる標準的な難易度の設問であるが，その特色を，選択肢を通して考えさせる良問である。

問８　多様な思想を活用して考えさせる工夫がみられる。しかし❷は，自然物と人間との関係について，意図が分かりづらく，やや難易度が高い。トマス・アクィナスの「恩寵は自然を破壊することなく，かえって自然を完成する」という考えを示すなど，もう一工夫を期待したい。

第２問　「日本文化」について（日本思想）

写真を登場させるなど意欲的な取組が見られた一方で，資料として登場させた写真やレポートの文章などの活用については，もう一工夫を期待したい。各時代の出題バランスは適切であったが，細かい知識が問われており，全体的に難しい大問である。

問１　折口信夫の思想についての標準的な難易度の設問。

問２　森鴎外や柳宗悦らについて問う設問。単に知識を問うのではなく，その意味するところを問うなどもう一工夫を期待したい。

問３　日本の神の信仰について問う標準的な難易度の設問。

問４　ロマン主義等の語句を知らずとも，与謝野晶子の歌についての会話文を丁寧に読むことによって正解を導くことができる設問である。

問５　中江藤樹の「孝」は知っていても，それが「あらゆる事象や事物を貫くもの」であることについては正誤判断に戸惑った受験者も多いだろう。やや難しい設問。

問６　アの『喫茶養生記』や，イの「綜芸種智院」は「倫理」の学習範囲では厳しい。また，アとイはいずれも文化の側面を取り上げており，教えや思想内容で正解を導く方が，受験者の学習成果を問うには望ましいだろう。

問７　富永仲基や山片蟠桃，手島堵庵は教科書本文での扱いが少なく，また安藤昌益も自然世などに焦点を当てて学ぶことが多いため，儒学や神道，仏道を批判したことまで学んだ受験者は多くないだろう。難易度の高い設問である。

問８　資料を丁寧に読み取ることができれば正解を導ける平易な設問である。大問の会話文を活用するなど，もう一工夫を期待したい。

第３問　幸福について（西洋近現代思想）

「幸福とは何か」についての発表資料を基に，西洋近現代思想に関する知識が問われるだけでなく資料や会話文の読み取りを通して思考力等が問われている。全体としては受験者にとって取り組みやすい設問が多かったであろう。

問１　ルネサンス期の理想的な人物像と代表者についての知識を問うやや平易な設問。

問２　カルヴィニズムと，ウェーバーの思想についての理解を問う難易度の高い設問。aに予定説の内容が入ることが分かれば，b，cについても文脈に沿って正答を導くことができそうだが，カルヴィニズムとウェーバーの思想について深い理解がなければ迷ったであろう。

問３　ア はベンサムの制裁（サンクション），イ はミルの自由主義，他者危害の原則についての説明。ベンサムの基本的な思想について理解していれば，アが正しいとできるので，選択肢が絞られ，標準的な難易度の設問となっている。

問４　カントの道徳思想についての理解を問うやや難易度の高い設問。選択肢の具体例は受

験者にとって分かりやすいものとなっているが，カントの道徳について深く理解していないと正答を導くことができない。発表資料を活用するための一工夫があってもよかった。

問５　ライプニッツについての理解に基づいた上でヴォルテールの詩の読解力が問われる標準的な難易度の設問。ヴォルテールがライプニッツに言及していることや詩が用いられていること自体，受験者にとって新鮮であろう。震災に関する詩であり，現代の災害について考える機会とすることもできる良問である。

問６　マルクスの労働に対する基本的な考え方や労働疎外についての基本的な理解を問う，標準的な難易度の設問。

問７　シモーヌ・ヴェイユの思想についての資料と会話文を用いた設問。ヴェイユについて深く学んだ受験者は少ないと考えられ，服従も「魂の糧」となるという難しい内容の資料のようにも見えるが，選択肢の文章も分かりやすく結果として平易な設問となった。読解を通して思想への理解を深めることができる設問である。

問８　高校生の会話の内容を読み取る設問。会話文は幸福と労働についての内容で発表資料と内容的に関わりがあるが，資料を振り返る必要はなく，平易な設問となっている。気づきの変化を読み取らせるという点で工夫は見られるが，知識を活用した上での会話文の読み取りにするなどもう一工夫が欲しい。

第４問　異文化理解とその倫理的課題（現代の諸課題と心理）

異文化理解を話題にする高校生同士の会話文を読んで解答していく構成。共通テスト⑴と比べ，従前の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の出題形式に近く，知識の理解のみで正答を導ける設問が多く，会話文の下線部だけを見て解答できてしまうきらいがあった。ミードやテイラーといった，教科書でも扱いが大きくない思想家も取り上げられているが，正答を導くのは困難ではない。

問１　イスラームの文化とヘイトスピーチという今日的課題に関する正誤を組み合わせる標準的な設問。イスラームは共通テスト⑴・⑵ともに源流思想でも問われており，新学習指導要領でイスラームの扱いに重みが出たことを象徴している感がある。

問２　国際貢献に対する意識の資料を読み取る設問。知識としてODAの基本的な理解があればよく，資料も分かりやすく複雑な設定ではないため平易に正答を導ける。

問３　葛藤の三類型を日常的なシーンと結び付けた設問。「倫理」の学びを日常とつなぐ設問は意味のあるものではあるが，思考力等を求めるもう一工夫を期待したい。

問４　先端医療技術についての理解を問う平易な難易度の設問。従来型の知識の理解を問う形であるが，課題意識を広げるためにも，生命倫理に関する今後の課題を浮き彫りにできるとなおよい。

問５　言語ゲームの内容を知識としておさえていればよく，この形式の設問から離れることが，現場の授業改善へのシグナルとなる。

問６　コミュニケーション的理性の用語でハーバーマスは識別できるが，アの説明がミードかソシュールかは選ぶのに苦慮した受験者も多いだろう。現代思想は授業で十分取り扱われないことも多く，その学習機会を促す点で，「倫理」の学習指導計画を再確認させようというメッセージと受け止められる。

問７　従前のセンター試験では定番の形式であり，出題形式や取り上げる面に変化を加えることが，授業づくりや評価の在り方に一石投じる可能性となる。

問８　共同体主義者テイラーの原典の一部を読み取る設問。解釈するだけでなく，共同体主義がどのような思想という知識を踏まえた考察を求める設問で，こういった設問は「倫理」

の狙いに即しており良問と言える。

問９　看板の表記をめぐる会話文の空欄に文章を当てはめていく設問。センター試験の内容合致の設問は，読解力により判断できた感があるが，冒頭の会話文を踏まえた上で，正しく成立するように文章を空欄補充していくには，論理的に思考することが求められており，日ごろから思考力・判断力・表現力等を高める学びを実現していく必要を訴えているものと受け止められる。

３　分　量・程　度

試験問題の分量は，大問４，総設問数33で，センター試験とは方針等が異なるため，単純な比較はできないが，センター試験の最終回であった昨年度の試験と比べると総設問数が４問減った。共通テスト⑴とは同設問数であった。各大問及び各設問における原典資料等は，問題を解くために必要かつメッセージ性のあるものもあったが，そうではないものも散見された。今後は，より方針に沿ったものとしていっていただきたい。全体の分量としては，試験時間に照らして適切な分量であった。

問題の難易度は，全体として，やや易しかった。出題内容や出題の分野のバランスの面では，共通テスト⑴と比べて，教科書等での頻出度の低い先哲の思想内容について，細かな知識を求める設問がいくつか散見された。頻出度の低い先哲の思想を出題する際には，資料を踏まえる等の工夫を求めたい。共通テスト⑴と比べて，やや細かな知識を必要とする設問があったため，平均点は共通テスト⑴よりは低いものとなった。しかし，教科書等での頻出度の低いような知識を問うことで難易度を上げるということではなく，資料の読解のみならず倫理的な知識を踏まえた上での資料の考察等，知識をより活用させる形での設問とする工夫及び選択肢の工夫により，適切な難易度にしていただきたい。

４　表　現・形　式

各設問の文章表現・用語については，受験者にとっておおむね適切であった。また，各大問で，学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていた。倫理の本質に照らすと，場面設定が設問で思考力等を問うための工夫に生かしきれていないものも散見された。今後は，思考力等を発揮する学習場面の必然性をより考慮して，多様な学習場面の設定の工夫を期待したい。

資料活用の力を測る設問として，グラフ問題が１問出題されたが，選択肢は正答を選びやすい易しいものとなっていた。写真やイラストを使用した設問が２問あったが，いずれも写真やイラストを設問として生かしきれていない印象であった。今後は，更に図や写真等を活用し，知識を踏まえて考察させる設問の工夫を期待したい。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

共通テスト⑵は，共通テスト⑴に比べて，やや知識の有無のみにより正誤を判断させるような設問が多くなっていた。共通テスト⑴と同様に，知識を活用し，考察させる設問を増加させるなど，共通テストの倫理の問題作成方針に更に適切に基づいた作問の工夫を期待したい。

特に，資料の読み取りに終始するのではなく，資料の中で，問いを提示し，その問いについて倫理の知識を踏まえた上で深く考察するような設問を期待したい。

第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国公民科・社会科教育研究会

（代表者　大山　敏　　会員数　約1,000人）
ＴＥＬ　03-3333-7771

１　前　　文

出題内容は，高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に示された教科及び科目の目標及び内容におおむね則しており，基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず，高校生が学習した知識や涵養（かんよう）した思考力や判断力を用い，考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか，さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。問題作成には多くの困難があったものと推察される。基礎的基本的な知識とは何かを確認すること，その基礎的基本的な知識を問うに当たり単に知っているか否かを問うのではない工夫を施すこと，さらに思考力や判断力を問うこと，一定の平均点を確保すること，試験時間内にひととおり解き終わること，他教科あるいは他科目との出題内容の重複を避けること，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること，そして何より大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の初回として広く社会に誇れるものであることなど，出題者の努力には敬意を表するものである。来年度更なる良問を作成し，高校生の学びの成果に応えていただくべく，後期中等教育の現場に在って公民科を与る立場から意見と評価を申し述べたい。

２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

共通テスト⑴と同じく，高校生からすればより高い思考力と判断力及び処理能力が求められた。大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の時から，「倫理」は科目の特徴ゆえに，思考力判断力を問う問題が多く，共通テストを先取りしてきた部分がある。そのため，今回，共通テストとなっても，センター試験を踏襲した形式が多かった。「倫理」を入試科目として選ぶ高校生の平均的な学力を考えれば，読解に要する文章等の情報量が増えても平均点が大きく下がることは考えにくい。知識のみで解ける問題を極力減らし，思考力や判断力，資料活用能力を試す問題が増えたのは共通テストの意図を出題者が十分汲み取ったからである。汲み取った分だけ，設定にこだわり過ぎて問いとは関係の薄い部分で冗漫になり，かえって煩雑で，読み飛ばしても正答が得られる問いもある。学習指導要領は同じであることから，これまでのセンター試験で問われている知識は同じであることは当然で，難易度も同程度である。

第１問　高校生が大学のオープンキャンパスに参加したという設定で源流思想についての基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。Ⅰではオープンキャンパスにおける模擬授業での講師と高校生の会話から，Ⅱではオープンキャンパスに参加した高校生の報告から，源流思想についての基礎的基本的な知識を確認するとともに確かな知識に基づく思考力判断力を問う。

問１　人間のあり方についてギリシア思想とインド思想についての基礎的基本的な知識を問う。単にキーワードを覚えていただけでは正答は得られない工夫がある。正答❸は六波羅蜜のひとつである布施の内容を説明している。

問２　源流思想を整理する問い。正答❷は善のイデアについての知識が問われた。

問３　旧約の世界で「創世記」は神による天地創造を語っているので神が人間に言うのは考えられるが，イエスに言うとは考えられない。さらに，ｂを含むＡの話から人間が被造物の一員であり，動植物の世話をする責任をもつことが選ばれる。スチュワードシップと聞いて驚いた高校生も少なくなかろうが，資料文の読解から理解できるよう工夫してある。

問４　水をキーワードとして孔子と老子の思想について基礎的基本的な知識と資料文の読解力を問う。

問５　ギリシア思想からヘラクレイトスとピタゴラスについて基礎的基本的な知識を問う。ヘラクレイトスは「万物は流転する」とはいうものの無秩序とは捉えず，ロゴスが働いていると考える。ピタゴラスは数による秩序ある世界観をもつ。根本的な思想内容を問う点は評価できる。

問６　仏教思想。縁起は全てのものは寄り添っていると考えるから「他に縁って存在する」となるのは平易。具体例で考えさせようというのは学習指導要領に沿ったものとして評価される。

問７　ムハンマドについて基礎的基本的な知識を問う。細かい知識を問うものの従前出題されてきている傾向を踏襲している。

問８　レポートの続きとされる文章の文脈から適切な表現を選ぶ思考力判断力の問い。新傾向ながら良問である。

第２問　「道」」について，日本に来た留学生と日本の高校生及び教員の会話ならびに高校生のノートから日本思想に迫る。

問１　王子神社田楽舞の写真から新機軸の出題を期待した高校生も少なくないところ，問われているのは折口信夫の思想についての基礎的基本的な知識だった。しかも高校生が下線部イの「まれびと」についての嘘の情報を留学生に吹き込むという極めて非教育的な会話文となっている。折口の思想についての知識を問うのにこの形式が最適と考えた理由が分からない。

問２　森鴎外と柳宗悦について基礎的基本的な知識を問う。平易。

問３　日本の神についての基礎的基本的な知識を問う。平易。

問４　会話文の文脈を理解することを前提とするかと期待させておきながら，実は与謝野晶子の思想を知っていればよいという基礎的基本的な知識の問い。文学史の問いでもあり「ロマン主義」で見抜ける。

問５　中江藤樹の思想について基礎的基本的な知識を問う。キーワードは「孝」であり万物の道理としたから正答①は容易に把握される。

問６　日本における仏教について，基礎的基本的な知識を問う。

問７　近世の仏堂批判について基礎的基本的な知識を問う

問８　和辻の文章から資料の読解に基づきレポートの趣旨に沿う表現を選ぶ思考力判断力の問い。

第３問　西洋近現代の思想について基礎的基本的な知識を中心に問う。キーワードは「幸福」である。生徒の発表という形で，Ⅰはルネサンスと宗教改革を，Ⅱは近代イギリス哲学を，Ⅲは近代フランスを，それぞれ扱う。

問１　万能人についての基礎的基本的な知識を問う。

問２　カルヴィニズムについての基礎的基本的な知識を問う。

問３　功利主義についてベンサムとミルの基礎的基本的な知識を問う。

問４　カントの思想について基礎的基本的な知識を問う。具体例を通して考えさせて解くよう工夫がある。

問５　資料読解に基づく思考力判断力を問う。ライプニッツの思想を踏まえて，ヴォルテールの詩を読んで考えさせようという意図は分かるが，思想的背景を知らずとも容易に正答に至ることができる。

問６　マルクスの労働疎外について基礎的基本的な知識を問う。

問７　ヴェイユの思想について資料文の読解に基づき考える問い。知識を問うだけにならないよう工夫されている。

問８　会話文の読解からふたりの考えを読み取る思考力判断力の問い。第３問全体のまとめとなるよう工夫されている。

第４問　今日的課題について語る会話文を理解した上で現代の思想について問う。

問１　今日のグローバル化の影響を具体例から考える。この問い方では「現代社会」での出題ではないか。もちろん，ムスリムの増加とハラルに象徴される異文化理解は大切であり，グローバル化が格差と分断をもたらしたことは重要である。

問２　国際貢献に関する調査統計のグラフ読み取りから思考力判断力を問う。

問３　レヴィンの葛藤についての基礎的基本的な問い。単に知識を問うことにならないよう具体例から考えるよう工夫されている。

問４　先端医療技術と生命倫理に関する問い。先端医療技術についての問いはどこまで「倫理」として出題できるのか，微妙である。

問５　ウィトゲンシュタインの考えについて基礎的基本的な知識を問う。説明文を読んで考えるように工夫はされているが，ここまで細かいとやはり知識の量で差がついたであろう。

問６　コミュニケーション論からミードとハーバーマスについての基礎的基本的な知識を問う。説明文アとイだけから誰かと問うのは難しいが選択肢がミードかハーバーマスかソシュールの３人なので難しくはない。

問７　防衛機制はじめ適応に関する基礎的基本的な知識を問う。

問８　テイラーと共同体主義（コミュニタリアニズム）について資料読解に基づき考えて解く。共同体主義（コミュニタリアニズム）についても高等学校で学んでおくようにという示唆であろう。求められる読解力は難しくはない。

問９　図と会話文の読み取りに基づく思考力判断力を問う。発言者の立場と会話の文脈から適切な表現を補う言語能力の問いでもある。時間は要するが平易な問いである。

第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考え方を働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　「自然と人間」に関するオープンキャンパスでの模擬授業とそれを受講した高校生が課題として提出したレポートを題材として，自然に照らした人間の在り方について考えを深める場面を通して，倫理的諸課題について考察する力と理解を問うた。

リード文については，大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）のような１ページ分の長いリード文とせず，オープンキャンパスでの模擬授業の場面を示したⅠと，模擬授業を受講した高校生が書いたレポートの文章であるⅡ（と問８）に分けた複数のミニリードを設け，時間的に推移した場面を設定した。これは，新しい試みである。

以下，各問について，簡潔に言及しておきたい。

Ⅰにおいては，問１と問２は，基本的な知識を問うた問題である。具体的には，問１では古代ギリシアと古代インドにおける人間の在り方に関する知識を問い，問２ではイスラーム・古代ギリシア・中国・古代インドにおける森羅万象に関する知識を問うた。問３は，キリスト教の聖書に関する基本的な知識を問うた上で，その内容が現代の倫理的課題（環境倫理）につながることを考察する力を問うたものである。問４は，人間の在り方を「水」になぞらえた孔子の言葉と老子の言葉の現代日本語訳の資料を提示し，教科書知識と提示された二つの資料の読解によって正解を選ぶ，新しい試みである。

Ⅱにおいては，問５と問７は，基本的な知識を問うた問題である。具体的には，問５では古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスとピタゴラス(ピュタゴラス)の世界観に関する理解を問い，問７ではムハンマドに関する説明への理解を問うた。問６は，仏教の縁起思想について正確な知識を問うとともに，文章の読解力を問うたものである。問８は，記述自体は正しい４つの選択肢から，レポートの続きの文章の文脈に合う最も適当な選択肢を選ぶ論理的な思考力・判断力を問うており，これは新しい試みである。

全体として，基本的な教科書知識を問うたほか，読解力に加え思考力・判断力を試す問題を設けて，バランスの取れた標準的な難易度と評価された。最初の共通テストということで，幾つかの新しい試みも採り入れ，特に問８は良問と評価された。大問に込めた受験者へのメッセージ(「人間とは何か」を問うことの意義)は，おおむね伝わったものと思われる。

第２問　日本人にとって身近ではあるものの，摑みにくい「道」の概念をめぐって，留学生の質問を機に，生徒と留学生がともに学びを深めていくという過程に受験者にも参加してもらうことで，日本倫理の基底を貫く思想に改めて目を向けさせることを狙った。問８は，従来のリード文の趣旨を問う形式から，「道」とは何かについての資料を読解させ，日本文化の基底を貫く「道」について正しく理解できているかを問う形式に変更したが，所期の目的は一定程度，達成できたのではないかと考えている。

各設問については，神・儒・仏の各領域と古代から近代までの時代をバランス良く出題できるよう配慮した。問１は「道」と伝統芸能との関連を写真を示して問うたが，会話中で生徒が留学生に向けて誤った説明をするのは教育上問題があるとの指摘を関係教育研究団体から受けた。間違うことから学ぶ姿勢も大事ではないかと考え，このような問題を出題した次第だが，懸念の声があることは，分科会での今後の問題作成に当たり，重々配慮したい。問６，問７は，関係教育研究団体からは，基礎的基本的な知識を問う問題と評価されたが，高等学校教科担当教員からは教科書では深く扱われない知識を問う問題であるとの指摘を受けた。共通しているのは，どちらも知識問題であると判断されているという点だが，例えば問７の③などは，手島堵庵が心学系統の思想家であることを押さえていれば，心学がどのような性格の学問で，本居宣長らが展開した国学がどのような性格の学問であるかといったことを考え合わせれば，おのずと解答が絞れてくるという作りになっており，そのように配慮したつもりではあった。また問６も，出題者としては知識を組合せて考える力を問う問題を作成したつもりであったが，そのあたりの狙いが十分に伝わらなかったようである。知識と知識を組合せて答えさせるような問題の作成は重要であり，今後，この方向で取り組んでいきたい。

大問全体を通して，単なる知識ではない，考えさせる形式の問題の作成を狙ってはみたものの，結果的に従来の問題形式と余り変わらないものになった感は否めない。新形式で考えさせる問題を増やすことは，継続的に取り組んでいきたいが，教科書レベルでの学習に基づく客観性を担保しつつ，読解力，思考力をどのように問えるかは，今後の課題であると考える。

第３問　西洋近現代思想における幸福をテーマとして，生徒が行った課題探求の発表を学習場面として設定し，発表内容を通じて，幸福に関する西洋近現代の様々な考えを示した。発表内容を通じて，幸福をめぐる思想の変遷，背景，相互の連関を整理し，各人の社会生活や日常生活の中での倫理的課題について考えるきっかけを与えることを狙いとした。また，私たちが生きる現代では，幸福を単に個人の問題としてのみならず，社会の問題としても考える必要があるというメッセージを込めた。問題作成に際しては，各小問が，思想の時代や地域，問われる資質能力をバランス良くカバーするよう心掛けた。

問２では，カルヴァンとウェーバーに関する基本的知識を踏まえて，倫理的諸課題の特色，背景などの相互の関連性について考察する力を問うた。この問いについては，カルヴィニズムとウェーバーの思想について深い理解がなければ迷ったであろうという評価を得た。問４では，カントの道徳法則に関する正確な理解をもとに，論理的に思考し，実例に当てはめて活用できるかを問うた。カントの道徳について深く理解していないと正答を導くことができないという評価を得た一方で，発表資料を活用するための一工夫があっても良かったという指摘も受けた。今後の作題に当たって留意したい。問５では，ライプニッツの思想を踏まえた上でヴォルテールの資料を活用し，必要な情報を読み取り，倫理的諸課題を捉えることができるかどうかを問うた。震災に関する詩であり，現代の災害について考える機会とすることもできる良問であるという評価を得た。単なる資料読み取りにならないよう工夫をしたが，しかしまた，思想的背景を知らずとも容易に正答に至ることができるという指摘も受けた。工夫の意図がより反映されるよう，今後の検討課題としたい。問７では，魂の糧の具体例に関するヴェイユの思想について述べた資料と，それを読んだ生徒の会話を通じて，社会生活や日常生活のなかの倫理的諸課題について，批判的に吟味したり多面的・多角的に考察できるかどうかを問うた。ヴェイユについて学んだ受験者は少ない点が懸念されたが，読解を通

して思想への理解を深めることができる設問である，また，知識を問うだけにならないよう工夫されている，という評価を受けた。問８では，発表の内容を振り返る会話を読み，会話を通じた生徒の考えの変化について正しく読み取った上で，倫理的な見方や考え方を働かせて，社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題を捉えることができるかどうかを問うた。知識を活用した上での会話文の読み取りにするなどもう一工夫が欲しいという指摘も受けた。今後の検討課題としたい。

第４問　外国語を学習することの意義をめぐる会話を手掛かりとして，「言語と社会の結びつき」に関する哲学的・心理学的な課題を具体的な場面に即して考えさせることを通じて，「自由と共同体の緊張関係」という倫理学の根本的な問題の一つについて，各人が主体的に考えを深めていくことを問題全体の狙いとした。会話文全体の趣旨の理解を問う問９については，高等学校教科担当教員から，「単なる読解力だけではなく，思考力・判断力・表現力等を高める学びの必要性を訴えている問題であった」という評価を得ており，上記の狙いはおおむね達成されたと判断することができよう。

各設問については，分野別・時代別にバランスの取れた出題となるよう配慮するとともに，基本的な知識の習得度を測るのみならず，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが必要となるような問い方を心掛けた。そうした試みの一つとして，レヴィンの葛藤分類の理解度を日常的な場面に結び付けて問うた問３については，関係教育研究団体から，「単に知識を問うのではなく，具体的な事柄に即して思考する力を求める問題であった」という評価を得た。また，「共同体主義」についての基礎的な知識を前提としたうえで，テイラーの文章の読解力を問うた問８については，単なる読解力だけではなく，基礎的な知識の習得度を同時に問うことのできる新しい形式となっており，高等学校教科担当教員から「良問であった」という評価を得た。他方で，ヴィトゲンシュタインやミードおよびハーバーマスの思想についての基本的な知識を問うた問５，問６，あるいは「適応」についての基本的な知識を問うた問７については，知識の習得度を問うという問題の性格上，従来のセンター試験の設問形式を踏襲した出題であったが，この点については，知識の有無を適切に識別できているという評価がある一方で，具体的な学習場面に即した出題の工夫が必要であるとの指摘も受けており，今後の作題に当たってはこうした指摘に十分に留意する必要があろう。

全体としてみれば，基礎・基本を重視した適切な難易度の問題であったと総括しうる。今後も，受験者の倫理への関心を喚起しうるようなメッセージを込めつつ，教科書の正確な理解とそれにもとづく思考力・判断力・表現力等を，具体的な場面に即して発揮できるような問題を作る努力を続けていきたい。

３　出題に対する反響・意見等についての見解

高等学校教科担当教員や教育研究団体より，試験問題の内容・範囲，試験問題の分量・程度，試験問題の表現・形式等について，多面的に意見・評価を頂いている。

以下，これらの意見・評価について，本部会の見解を述べる。試験問題の内容・範囲についてであるが，それぞれの大問と設問については，上に個別的に見解を記述しているので，ここでは，全般にわたる指摘について述べたい。

まず，高等学校教科担当教員からは，「各大問で，学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていた」という評価を得た反面，「倫理の本質に照らすと，場面設定が設問で思考力等を問うための工夫に生かしきれていないものも散見された」という指摘もされた。今後，思考力等を発揮する学習場面の必然性をより考慮して，多様な学習場面の設定の工夫をする必要がある。

試験問題の分量・程度については，「全体の分量としては，試験時間に照らして適切な分量」との評価を得た。また原典資料については，「各大問及び各設問における原典資料等は，問題を解くために必要かつメッセージ性のあるものもあった」と評価していただくと同時に，「そうではないものも散見された」との指摘もあった。今後の課題である。

試験問題の表現・形式については，「受験者にとっておおむね適切」と評価された。また図や写真を活用しようと試みたのであるが，その意図が設問に生かしきれていないと指摘された。図や写真等を活用し，知識を踏まえて考察させる設問を今後工夫していく必要がある。

また関係教育研究団体からは以下のような肯定的な意見を頂いた。「出題内容は，高等学校学習指導要領に示された教科及び科目の目標及び内容におおむね則しており，基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず，高校生が学習した知識や涵養（かんよう）した思考力や判断力を用い，考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか，さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。」

4　ま　と　め

今回が初めての共通テストであり，問題作成部会は作題に当たり困難に直面した（そこにはコロナ禍の下での作題も含まれる）。そのような状況下で努力して作った倫理の問題に対して頂いた肯定的評価は，今後の作題に向けて大きな力となるものである。しかしそれは同時に，その長所をさらに伸ばしていくべき課題でもある。基本的な知識の確認，思考力・判断力・表現力等を問うこと，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること等の課題達成に更に取り組んでいきたい。またその際，問題作成方針に沿いつつ，受験者に，教科書で学習した基本的な知識を踏まえ，多様な資料を活用して考察させる質の高い問題を作っていきたい。

具体的には，

- これまで同様，分野別・時代別等においてバランスが取れており，一定の平均点を確保し，試験時間内にひととおり解き終わる問題作成に努める，
- 基本的知識を基にしながらも，変化する社会に対応できる理解力，思考力・判断力・表現力等を問う問題作成に努める，
- 高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなり，また大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持するものとして，広く社会に誇れる問題作成に努める，

ということになろう。